



授業者

西村庸輔教諭 ALT Krystal Sam Boland

単元

We Can!1 「What time do you get up? 一日の生活」(全8時間)

単元計画

- 第1時 日課の言い方を知る。
- 第2時 頻度や日課を表す表現を聞いたり言ったりできる。
- 第3時 一日の生活について伝え合う。
- 第4時 家での生活について伝え合う。
- 第5時 家での手伝いについて頻度も含めて伝え合う。
- 第6時 他者に配慮しながら自分の一日の生活について伝え合う。(本時6/8)
- 第7時 どのような伝え方をすれば相手にしっかり伝わっているかを考えながら、自分の一日の生活について発表する準備を行う。
- 第8時 他者に配慮しながら、自分の一日の生活について発表する。



新学習指導要領 目標

(4) 話すこと[発表]イ

自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

CAN-DO リスト形式の学習到達目標

話すこと[発表]②自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。



グループ協議より

協議の視点『言語活動を通して資質・能力が育成される単元計画になっているか』

- ・「Nice!」「Wonderful!」だけではなく「Why?」と聞くことで、なぜそんなに早起きなのか？など、今まで知らなかった友達の新たな一面を知ったり、理由もつけてスピーチをした方がより伝わりやすいと気がついたりすることにつながるのではないか。
- ・本時まで『やり取り』の指導を行い、8時間目のゴールで『スピーチ』という単元構成は、子どもにとって負担が大きいのでは？前時までにミニスピーチ大会などを経験させておくと、子どももスピーチのイメージがもてるかもしれない。

中妻佳代准教授より



①子どもの実態と教師の思いから単元をつくること

外国語科だけでなく、どのような須崎の子どもを育てたいと思っているのかという教師の思いや意図(英語だったら言える「Nice!」「Good!」等の肯定的な評価を日本語で他教科でも表現できるようになってほしい!という担任の願い)が指導案から伝わってきた。

本単元には、手伝いや日課等たくさんの言語材料が出てくる。子ども達がそれぞれの意味を理解した上で使えるようにするためには、言語活動を繰り返し、コミュニケーションを図りながら身につけさせることを大事にしてほしい。

②聞きたい・伝えたいという目的や場面をどう仕組むのか

何を伝えたいのか?なぜ伝えたいのか?という目的意識を明確にすることが大切である。「スピーチを聞き合うことで、何か新しいことを知ることができるかもしれない」「みんなが知らない自分のことを知ってもらおう」と子どもが思えるようにするために、例えば、日課や手伝いにプラスして『好きなことをする時間』をスピーチに付け足してみてもどうだろうか。子ども達の聞きたい・伝えたいという気持ちにつながるのではないかと思う。自分が本当に伝えたいことについては、子ども達は燃えるに違いない。

子どもの「伝えられて嬉しい!」「分かってもらえて嬉しい!」という気持ちを大切にしながら授業をつくってほしい。

参観者より

- 単元のゴールを考え、1時間ごとに習得させたい力を具体的に設定するためには、単元計画の見直しが必要だと分かった。
- 付けたい力の設定、単元ゴールとなる言語活動の設定、見方・考え方の確認を行った上で、単元構成をたてる大切さを改めて学ぶことができた。
- 生徒・児童の現状と付けたい力から、適切な単元ゴールとめあての設定をすることの大切さを改めて感じた。小学校の授業を見たり先生方とお話ししたりするなかで、小中のスムーズな連携の重要性、小学校での学習内容をふまえた授業展開の必要性についても再確認することができた。(中学校教諭)